



身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

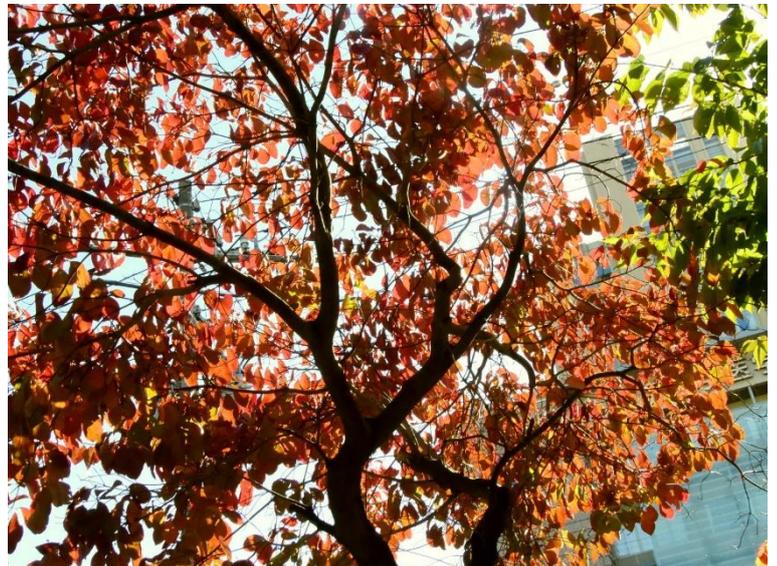
2021.10.29

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと → 金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

11月の石神井川観察は、11/11(木)、11/26(金)
10:00 帝京大学病院北側の御成橋たもと出発

光とものの見え方を楽しむ



寒さと暖かさの繰り返しが続く今年の秋は木々の紅葉は期待できないようです。街路樹のハナミズキは紅葉も楽しめる種ですが、太陽を背にした順光で見ると上左の写真のよう

にきれいではありません。そんな時は逆光で見ると、光が透けてきれいに見えます。

緑道に植えられているアベリアは常緑なので紅葉しません。ダイヤモンドのように輝いて見えるときがあります。逆光では光沢のある葉に光が反射してまばゆいばかり →



メヒシバが枯れ始めているのにオヒシバは巨大化

そのおかしさにこだわり続けていくことは必要なこと



秋も深まってイネ科の植物ももうすぐ枯れ状態になります。上左の**メヒシバ**の花穂（小穂）は茶色に変色しているというのに、右の**オヒシバ**は巨大化して成長中。こんなアンバランスは初めて観察しました。



かと思うと、前号（10/14）レポートで「？」付きで紹介したヤエムグラの展葉（左上）。10/29の観察では本葉が伸び始めていました（左下）。通常、3月のニリンソウと同じ時期に開花する植物なのに、もう春が来たかのような成長。普通に観察していれば、こういう現象は日常事となっておかしいとは感じられなくなるのですが、やっぱり、そのおかしさにこだわり続けていかなければなりません。

どうしてここに生えてくるの？ またまた初観察、クサノオウ登場！

月2回でも、定点観察は必要。帝京大学附属病院の北側、JR社宅前の道路が拡幅改修されても、以前からの歩道はあまり手が付けられていなかったのですが、ここでは、前回オオケタデ、タケニグサが出現、今回は**クサノオウ**が出現。同定が怪しい木村でも間違いないと思います。→赤塚公園の絶滅危惧種ヤマブキソウに似ているケシ科の植物で当然有毒。ということは薬草（しかも、かなり役に立つ）にもなってきた野草です。

